

住工共生まちづくり検討にかかる現地視察実施結果（報告）

住工共生まちづくり条例の検討に資するため、現場の視察を行った。

水走の周辺に住宅のない工業地域において操業をしている鍛造の工場。工業地域における振動の排出基準（70デシベル）を体験。

南荘町の第二種住居地域において操業している焼き鈍しの工場。近隣の建売住宅開発により苦情が発生し、設備投資を行った事例。

稲田三島町の工業地域の24時間操業工場と隣地に建設された大規模マンション。防音壁が設置されているが、それでもなお苦情がある事例。

森河内東町の第一種住居地域における鍍金業とその周辺を囲むように立地した住居の事例。

森河内の第一種住居地域における工場集積地の事例。

高井田地区視察。市が地区計画等の事前調査を行った地域、駅前マンションの広告（3LDKで1800万円）看板、鋳物工場、大規模企業転出事例、製造業が廃業した後の一戸建て住宅地となった街区など。

以上の視察終了後に参加者から出された主な意見。

- ・すぐに解決方法は見えてこない。課題があることははっきりしている。今回の条例で施策の方向が出るだろうが、どれが解決できて、どれができないかと言えば、今はできないことの方が多く感じる。手立てを見せていただかないと何とも言えない。
- ・現在の案では工業地域で住宅建設していかれる。緩衝地帯とかいうが、稲田本町のは何の役にも立っていない。工場に求めるのか、開発業者に求めるのか、正直どうなるか見えない。基準を超えているものは何とかしないとイケない。また社会道義的、心理的なものはどうするか。互いに生きていくための手立てなのだが、後から来た人は黙っとれという法律にはなっていない。対策をとというのが中小企業が多いので（経営）体力がない。
- ・地域でがんばろうとしているのをどうするか。地域と歩調を合わせてやろうとしているところは利益を出しているところが多い。視察した事例のように地域と調和するような条例になればいいと考える。めっき業が3件並んでいる事例は続けるのもやめるのも大変。高井田は地域として重要なので守っていかないとイケない。でも、みなさん、総論賛成、各論反対である。これらは東大阪で独自の部分もあるし、全国的に共通な部分もある。他自治体でも住工関連の委

員をやっているのです、そちらでも情報収集をしていきたい。

- ・大学で研究しているが、ここ13～4年で明らかに宅地化が進んでいる。住工混在の解決というが何も変わっていない。市はどこで折り合いを付けたいのか。要因もしっかりと考えないと。駅近のマンションが1800万円というのは買う気がわかる。
- ・都市化が進んで成熟化、さらにスプロール化（都市が無秩序に拡大していくこと）していつている。生駒に住んで、東大阪がモノづくり、という役割だったのに、東大阪から生駒に移転した企業があり、東大阪にマンションなどが建設されてきている。西淀川区では、工業地域で事業者側が、うちは24時間やります、音が出ます、と看板を掲げて住民との摩擦が起こっている。
- ・モノづくりは一番重要な産業のひとつ。市長は工場の後に工場を、と仰っている。日本は加工貿易で成り立ってきた。問題解決の手立てとどこまでできるのかの切り分け、がポイント。固定資産税の減免ということができないか考えていて、大阪商工会議所が中小企業対策に要望されて中身で固定資産税と都市計画税の算定基礎の負担水準を70%から60%に引き下げる、というのがあった。これを本市でやろうとすると30億円の税収減になる。この下がった分で企業が復活できるか、どうやって埋めていくか。ひとつの考え方として検討していきたいと思う。